

# 被災地域企業の初期対応



(一社) 日本道路建設業協会 北陸支部  
北川ヒューテック(株) 工事部参事

桜谷 喜一



(一社) 日本道路建設業協会 北陸支部  
北川ヒューテック(株) 能登営業所主任

角 泰成

令和6年能登半島地震の発生に伴い、当社では震災後の救出活動や物資運搬、道路緊急復旧活動などに取り組みました。復旧活動に携わって感じたことを紹介します。

## 1. はじめに

令和6年1月1日午後4時10分頃、令和6年能登半島地震が発生し、現地では震度6強～7の激しい揺れに見舞われ、多くの家屋が倒壊しました。地震により、能越自動車道や国道249号などの主要道路が寸断され、復旧作業のための移動や支援物資の輸送などに支障が生じ、当社では地震発生の翌日から救出活動や物資輸送、道路緊急復旧活動にあたりました。

## 2. 能越自動車道の残された車両の救出

1月2日午前、国土交通省金沢河川国道事務所から、能越自動車道に取り残されている一般車能越自動車道



写真-1 取り残された車両の調査および救出(1月2日)



写真-2 道路の状況確認および救出(1月2日)



写真-3 ガードレール撤去状況(1月2日)

両を救出するため、ガードレールを撤去してほしい旨、連絡を受けました。

金沢市に本社を構える当社では、出勤可能な社員が対策チームを作り、即座に現地社員と状況を確認し人員派遣と車両を手配。現場までの通行状態不明の中、社員4名が碎石用小型ダンプとグループ会社のユニック車に乗り込み出発しました。能越自動車道は路面段差が激しく、碎石で擦り付けながら前進し、数時間後ガードレールを撤去、複数台の一般車両を穴水ICへ誘導し、脱出協力を成功しました。

通常は片道2時間弱ほどで到着する現場でしたが、6時間ほどかかり、作業を終えて金沢市へ戻ったのは深夜0時を過ぎていました。

## 3. 自治体・協会の要請で緊急物資の運搬

1月3日頃から、各自治体や各協会から緊急物資の運搬要請が相次ぎ、ブルーシート、常温合材、



写真-4 緊急物資運搬の様子(1月3日)

燃料など様々な物資を積載して金沢市を立ちました(冬季のため、降雪前に塩カル納入を要請する自治体もありました)。私ども有志社員と協力業者はおにぎりとお茶を持って奥能登を目指し、珠洲市、輪島市までは通常2時間半ほどの道のりを、8時間以上も費やして向かいました。

能登地区のアスファルトプラントが被災したためアスファルト合材が入手できず、プラントが再稼働するまで金沢・加賀方面から常温合材を運搬しました。碎石に関しては、県内ダンプの現場稼働過多により運搬に手が回らず、他府県への要請などで、毎日のように富山・新潟・福井をはじめ各県ナンバー車が碎石を積んで応援に駆けつけてくださり、ありがたい思いでいっぱいでした。

## 4. 被災地域の作業員と他地区からの参加

元日の震災だったため能登・羽咋地区の社員、作業員の多くは被災し、何とか協力できる数名が限りある材料や現地にある材料を利用して、道路の穴埋めを行いました。また、金沢・加賀地区から大勢の方が間髪を入れず復旧工事に参加。さらに能登地区のメンバー復帰により、のと里山海道、国道249号(志賀町・曾々木地区)、県道303号柏木穴水線、珠洲道路、県道28号大谷狼煙飯田線、能登空港、小木港や各市町道など、広範囲に復旧作業を展開していきました。

さらに、北陸地方整備局と道建協の災害協定に基づき、防災対策石川ブロック構成会社から7社が、被災状態が最も激しく、分断された集落への緊急ルートを確認するため、迅速に復旧作業にあたりました。

震災から約1か月後には、アスファルトプラントも一部出荷可能となり、加熱合材も使用できました。また、能登地区社員・作業員もほぼ全員が出社し、本部隊として稼働を始めました。

## 5. おわりに

まだまだ詳細が把握できない範囲で、多くのミッションが行われていたことと思います。協

力業者を含む多くの方々のご尽力で、初期段階の緊急ミッションが事故なく対応できました。関係者の皆様の協力で深謝いたします。

能登には、「三文なくても意気地が大事」という古語があります。価値は金銭だけでなく、能登人の心意気や誇りを感じる4か月間でした。

## 国道249号災害緊急復旧工事に携わって

角 泰成

私が、国道249号(曾々木地区)へ現地入りしたのは、震災1か月後の2月初めでした。海は隆起し山は崩れ、土砂は家や道路を押し流していました。唯一アクセスできる県道6号の輪島市町野地区は倒壊家屋が多く、一時は孤立した地区でもありました。

「どこから作業すればいいのか?」、緊急車両や自衛隊のルート確保のためアスガラの撤去、碎石での穴埋め、アスファルト舗装、最後に仮置きしたアスガラ運搬、また、材料運搬も時間が倍以上かかるため、できるだけ大型ダンプを使用して搬出入の時間を効率化しました。

珠洲での避難所生活が続く中、多くの方々に支えられて日々作業を遂行できました。地域住民の生活や支援物資輸送の妨げを起こさないように、さらに今後の復旧工事に携わっていきたいと感じています。

## 国道249号(輪島市町野町地内)



写真-5 天神橋 緊急復旧前(2月8日)



写真-6 天神橋 作業中(2月22日)



写真-7 天神橋 緊急復旧後(2月22日)